

2024・2

柏の景気情報

令和6（2024）年2月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年2月の調査結果のポイント)

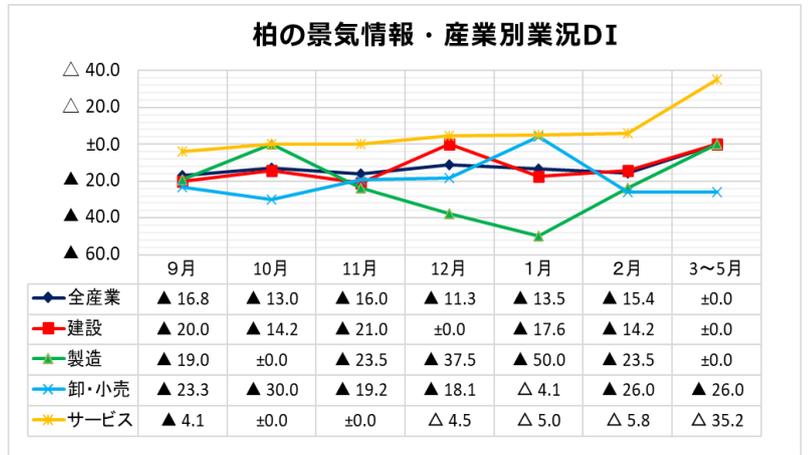
★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年2月21日～令和6年3月5日 調査対象：柏市内176業所及び組合にヒアリング、回答数71

賃上げ・技術者不足など人材確保への課題は多く、4月の働き方改革関連法施行に向けた準備に苦慮の声

2月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.4（前月水準▲13.5）となりマイナス幅が1.9ポイント拡大した。

各業種、慢性的な人手不足のコメントが目立ち、人材確保に向けた賃上げ、そのための価格転嫁の推進や生産性向上への課題が多い。製造業では、取引先からの受注減・コスト負担増で原資確保が困難。卸小売りやサービス業では、物価高による買い控えは継続しつつも回復傾向が見られる事業所が出てきている。深刻な人手不足で需要に対応が追い付かずといった意見もあり、先行きは建設・製造・サービス業で改善を示すも力強さを欠いている。



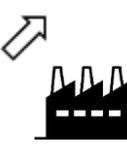
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「新規顧客との取引は相見積りとなるため、コスト上昇分を価格転嫁しにくい状況が続いている。一方で、既存顧客は状況に応じた価格転嫁を行った場合に納得してもらえることが多く、新規受注が重要と考える」（建築工事）「元請けからの工事単価がほとんど上がらず、技術者等の不足や建設資材価格の高騰により、経営状況は厳しい」（土木建設工事）



製造業

「資源は上昇傾向にあるが、製品もそれに合わせ価格を見直ししているのでバランスが取れてきている。人材不足は深刻で技術伝承に問題が出てきている」（機械・同部品製造）「原材料・エネルギーの価格転嫁を行っている最中であり、賃上げ分までの価格転嫁が出来ていない。人材確保のため大幅な賃上げをしたいが、原資が無く政府が考えているレベルの賃上げは難しい」（自動車附属品製造）「利益をけん引してきた医療品容器の受注に陰りが見え始め、低迷中の化粧品容器にも回復要因が見当たらない」（プラスチック加工）



卸・小売業

「趣味・嗜好性の強い雑貨関連商品、食物販・サービス関連は好調継続するが、物価上昇により販売点数はやや鈍化。テナントからは慢性的な人手不足の声が聞かれ、今後の懸念材料」（百貨店）「個人消費は悪くない印象だが、今春の実質賃金に左右されると思う」（各種商品小売）「取り扱い食品（海産物）について近年最悪の仕入れ状況。高値、原料不足がシーズンを通して予想される。ありがたいことに商品需要がありインバウンドやふるさと納税返礼品、EC販売等 伸ばせていない部分も強化していきたい」（食料卸売）



サービス業

「資材の高騰は相変わらず続いている。価格高騰のため、買いの購入希望者は減少し、全体に売上の動きは低調。金利も上がっており、先が読めない」（不動産管理）「天候の影響が大きい。雪やみぞれ、強風により営業を制限したため、前年同月比で3~5%の売上減少を見込んでいる。修繕費や消耗品は10~15%値上がりしているものが多く利益を圧迫している」（ゴルフ練習場）「インボイス制度導入に伴う会計処理等の処理についてはまだ周辺状況を見守っている状態」（地質調査・地質コンサルタント）

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲15.4に対し、「CCI-LOBO」が▲12.9で、柏のほうがマイナス幅が2.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設、製造業、卸小売である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 15.4	 ▲ 14.2	 ▲ 23.5	 ▲ 26.0	 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 12.9	 ▲ 13.0	 ▲ 17.0	 ▲ 19.2	 ▲ 4.4
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.9	 ▲ 21.4	 ▲ 29.4	 ▲ 8.6	 ▲ 11.7
CCI-LOBO	 0.9	 ▲ 3.3	 ▲ 5.1	 ▲ 3.1	 8.3
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.3	 ▲ 21.4	 ▲ 41.1	 ▲ 30.4	 ▲ 5.8
CCI-LOBO	 ▲ 13.8	 ▲ 20.2	 ▲ 15.2	 ▲ 15.2	 ▲ 6.4
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 64.7	 ▲ 50.0	 ▲ 76.4	 ▲ 69.5	 ▲ 58.8
CCI-LOBO	 ▲ 60.8	 ▲ 70.0	 ▲ 52.3	 ▲ 67.0	 ▲ 59.3
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 25.3	 21.4	 23.5	 17.3	 41.1
CCI-LOBO	 21.7	 35.8	 11.1	 20.4	 28.8
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 19.7	 ▲ 7.1	 ▲ 17.6	 ▲ 43.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.8	 ▲ 6.5	 ▲ 14.5	 ▲ 13.7	 ▲ 7.7

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：2024年2月13日～19日

調査対象：全国の326商工会議所が2,456企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、コスト増による需要停滞で、悪化続く

先行きは、人手不足と物価高の長期化で慎重な見方

2月の全産業合計の業況DIは、▲12.9と前月比から▲1.5ポイントの改善。

小売業は、消費者の買い控えは継続するものの、好調な百貨店がけん引し、改善した。サービス業は、飲食・宿泊業を中心にインバウンド回復の恩恵を受けるも、人手不足やコスト増が下押しし、ほぼ横ばいとなった。建設業は、公共工事が下支えするも、資材価格の高止まり等で力強さを欠いた。また、製造業は、企業のコスト負担増による設備投資の足踏みを受け、機械器具関係等の需要減で悪化し、卸売業でも、これらの需要減による取引減少で悪化した。

物価が高止まりする中、

円安や人材確保に向けた賃上げ等、コスト増が重荷となつている。深刻な人手不足や価格転嫁等の構造的な課題も山積しており、中小企業の業況は悪化が続いた。

【建設業】

「技術者などの専門人材の不足が続いている中で、4月から施行される働き方改革関連法にどのように対応していくかが大きな課題である。社員教育による底上げを行うとともに、生産性向上に向けたデジタル導入などを検討する」(一般工事業)

「大型案件の受注ができなかったが、資材価格の高騰で先出しする資金が増えており、資金繰りの見直しが必要である」(大工事業)

【製造業】

「コスト増の影響で市場の動きが鈍い中、取引先が年度末の在庫調整に入り、受注

数が大幅に減少している。コ

ロナ禍からの挽回生産で生産量を増加させていたが、想定よりも売れ行きが良くなり、在庫過剰な状態である」(金属加工機械器具製造業)

「売上が伸び悩む中、労務費や仕入価格が上昇しており、価格転嫁も十分に追いつかず、経営に重くのしかかっている」(建築用金属製造業)

【卸売業】

「価格転嫁は順次対応が行えているが、取引そのものが減少しており、業績は悪化している。加えて、人手不足も深刻で、事業継続に向けて社内の若返りを図りたいところだが、原資が確保できない中で賃上げや福利厚生の充実は難しいため、採用が進まない」(一般機械器具卸売業)

「住宅需要の低下により、引き合いが減少している。仕入単価も高止まりをしており、利益の確保が難しい」(建築材料卸売業)

【小売業】

「外国人観光客による消費は拡大しており、売上は好調が続いている。国内需要は足元では力強さを欠いているものの、来年度の賃上げの状況によって消費拡大が喚起されることを期待したい」(百貨店)

「物価高で消費者に購買意欲が無い中、電気代等のコスト増が重荷である。今後、輸送費も上昇するため、一層苦しい状況が見込まれる」(酒類小売業)

【サービス業】

「売上は順調に回復傾向にあり、年度末の歓送迎会の予約も順次入っている。一方で、電気代の高止まりは依然として重荷となっている。また、人手不足は深刻な状況が続いており、需要増に対応が追い付かない状態が続いている」(飲食店)

「荷動きが悪い中、4月の働き方改革関連法が施行予定であり、物流が増加したときに対応できるか不安である」(運送業)

全国・産業別業況DIの推移

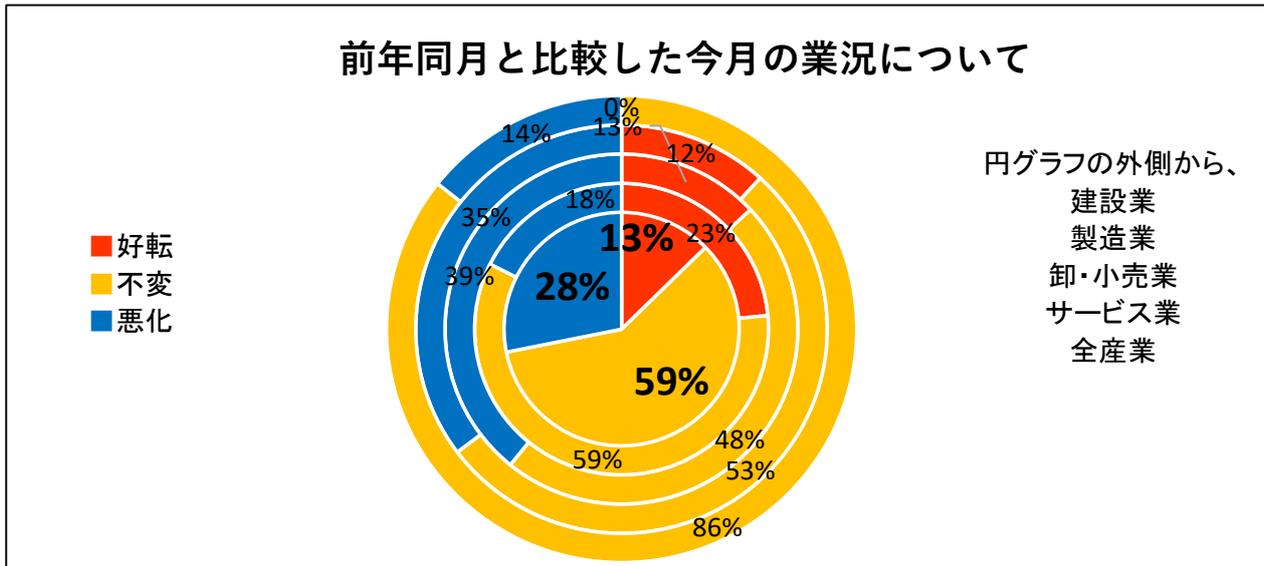
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲ 9.0	▲ 16.5	▲ 8.5	▲ 19.7	▲ 9.2	△ 0.2
10月	▲ 10.5	▲ 14.3	▲ 9.3	▲ 20.6	▲ 16.0	△ 0.0
11月	▲ 9.7	▲ 11.7	▲ 10.2	▲ 12.0	▲ 18.7	△ 0.2
12月	▲ 8.4	▲ 11.0	▲ 8.1	▲ 6.9	▲ 20.8	△ 2.4
1月	▲ 11.4	▲ 12.3	▲ 13.4	▲ 10.4	▲ 16.2	▲ 5.2
2月	▲ 12.9	▲ 13.0	▲ 17.0	▲ 19.2	▲ 14.4	▲ 4.4
見通し	▲ 13.6	▲ 13.7	▲ 15.8	▲ 23.3	▲ 16.0	▲ 4.8

令和6年（2024年）2月の動向

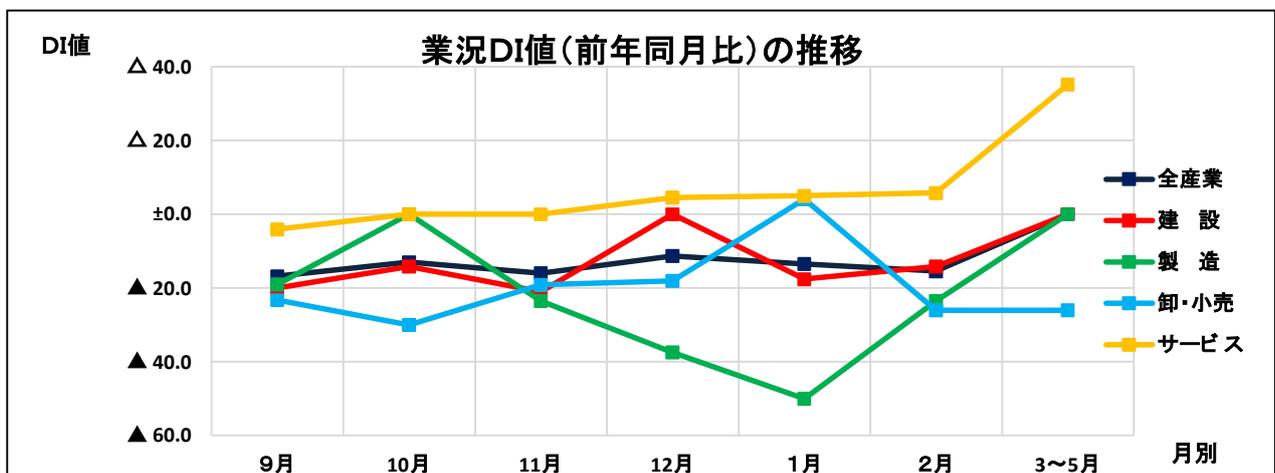
【業況について】

- 2月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲15.4（前月水準▲13.5）となり、マイナス幅が1.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（3月から5月）の先行き見通しについては、全産業では、0.0（前月水準▲2.4）となり、マイナス幅が2.4ポイント縮小した。



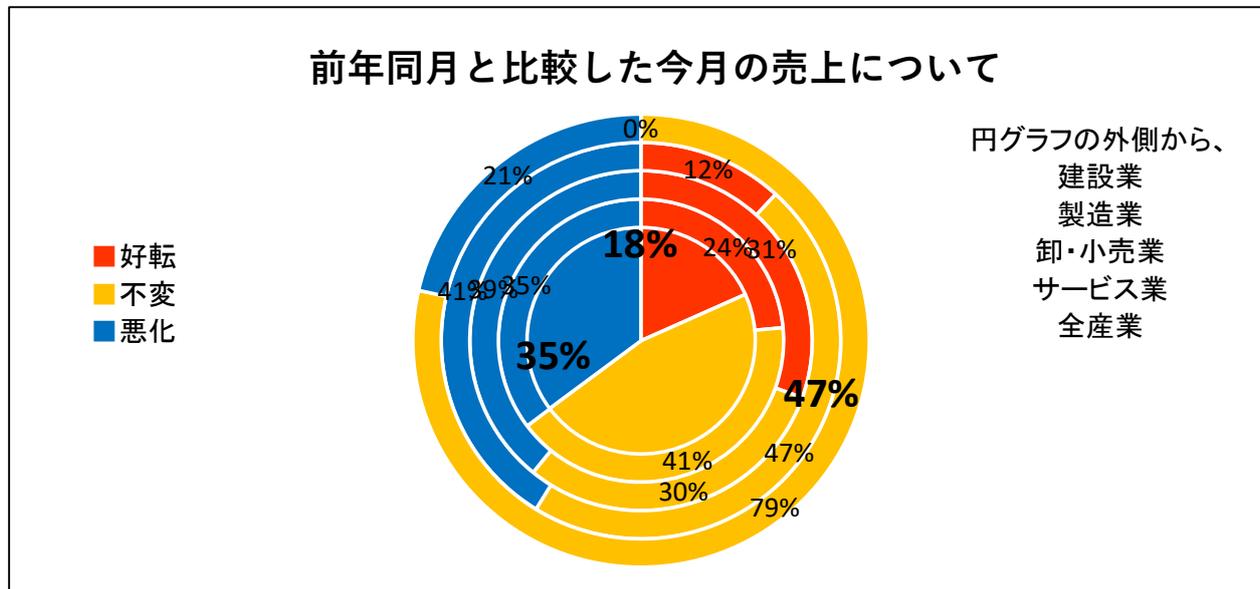
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	9月	10月	11月	12月	令和6年1月	令和6年2月	先行き見通し 3~5月（2~4月）	
全産業	▲16.8	▲13.0	▲16.0	▲11.3	▲13.5	▲15.4	±0.0	(▲2.4)
建設	▲20.0	▲14.2	▲21.0	±0.0	▲17.6	▲14.2	±0.0	(▲11.7)
製造	▲19.0	±0.0	▲23.5	▲37.5	▲50.0	▲23.5	±0.0	(▲15.0)
卸・小売	▲23.3	▲30.0	▲19.2	▲18.1	△4.1	▲26.0	▲26.0	(▲8.3)
サービス	▲4.1	±0.0	±0.0	△4.5	△5.0	△5.8	△35.2	(△25.0)



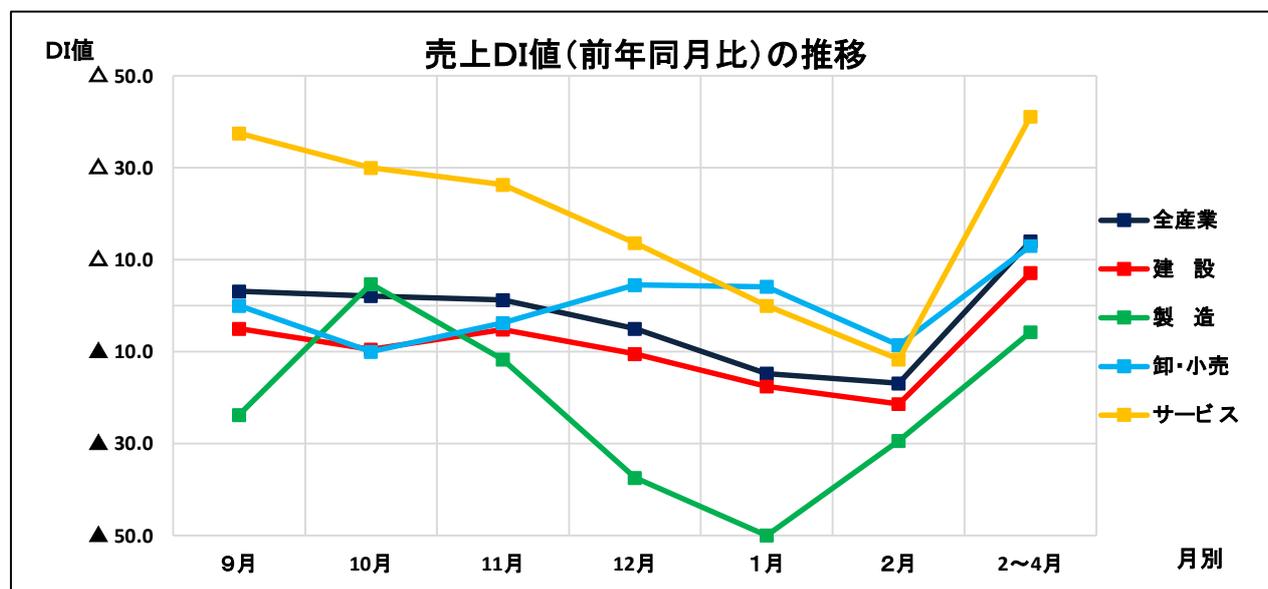
【売上について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.9(前月水準▲14.8)となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△14.0(前月水準△7.4)となり、プラス幅が6.6ポイント拡大した。



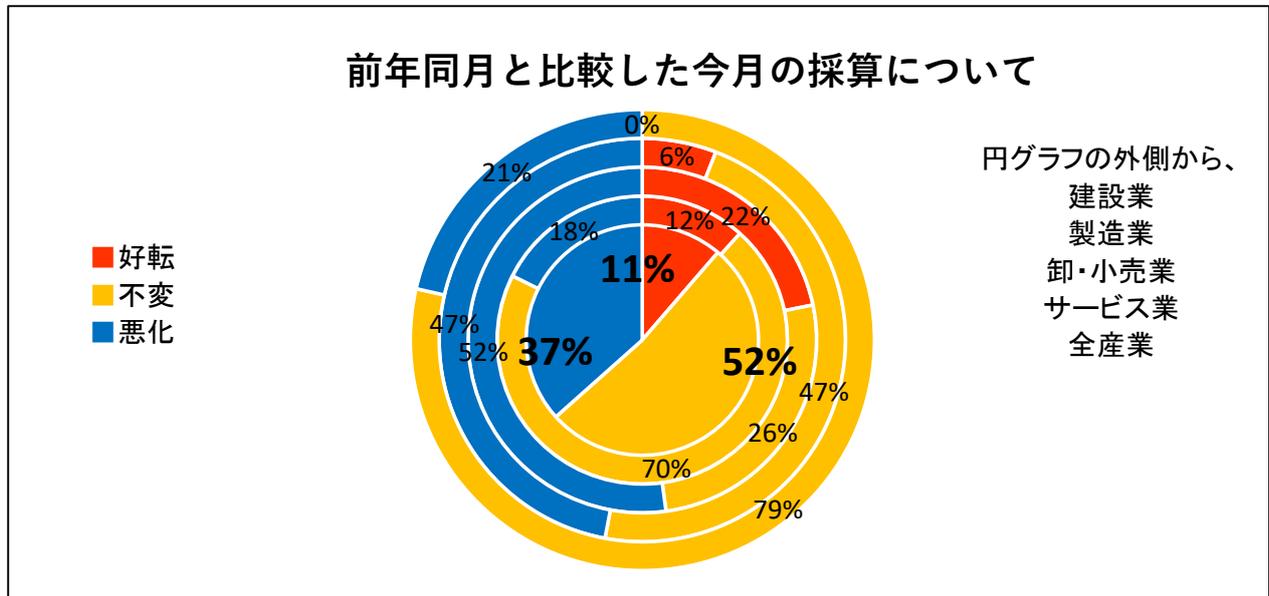
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	9月	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	先行き見通し 2~4月 (2~4月)
全産業	△3.1	△2.1	△1.2	▲5.0	▲14.8	▲16.9	△14.0 (△7.4)
建設	▲5.0	▲9.5	▲5.2	▲10.5	▲17.6	▲21.4	△7.1 (▲5.8)
製造	▲23.8	△4.7	▲11.7	▲37.5	▲50.0	▲29.4	▲5.8 (▲15.0)
卸・小売	±0.0	▲10.0	▲3.8	△4.5	△4.1	▲8.6	△13.0 (△12.5)
サービス	△37.5	△30.0	△26.3	△13.6	±0.0	▲11.7	△41.1 (△35.0)



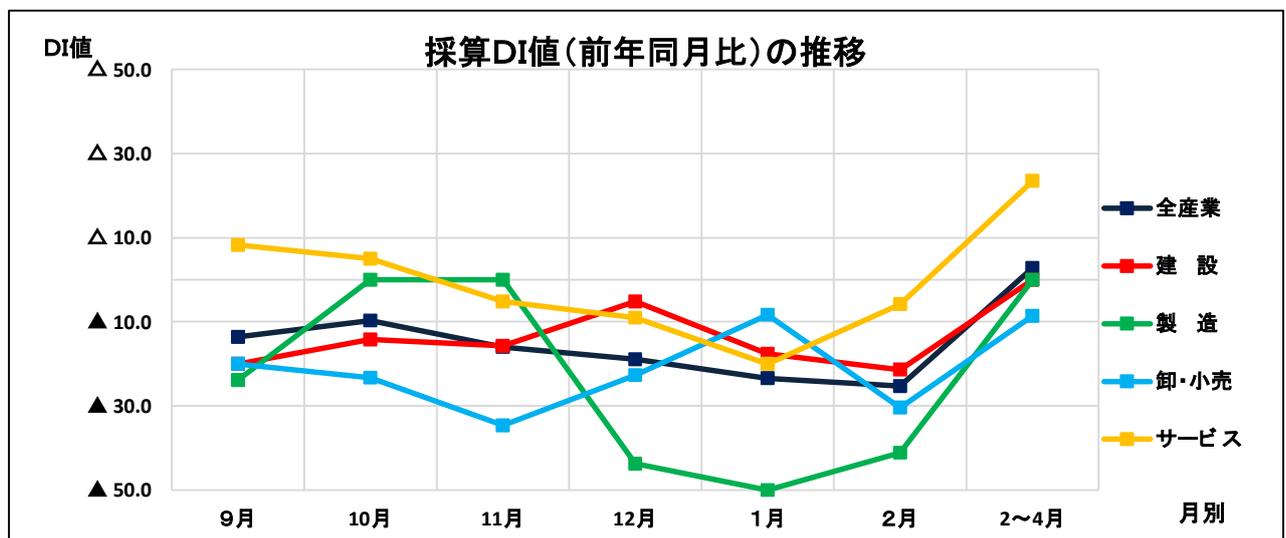
【採算について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.3 (前月水準▲23.4)となり、マイナス幅が1.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、2.8 (前月水準▲3.7)であり、プラス幅が6.5ポイント拡大する見通しである。



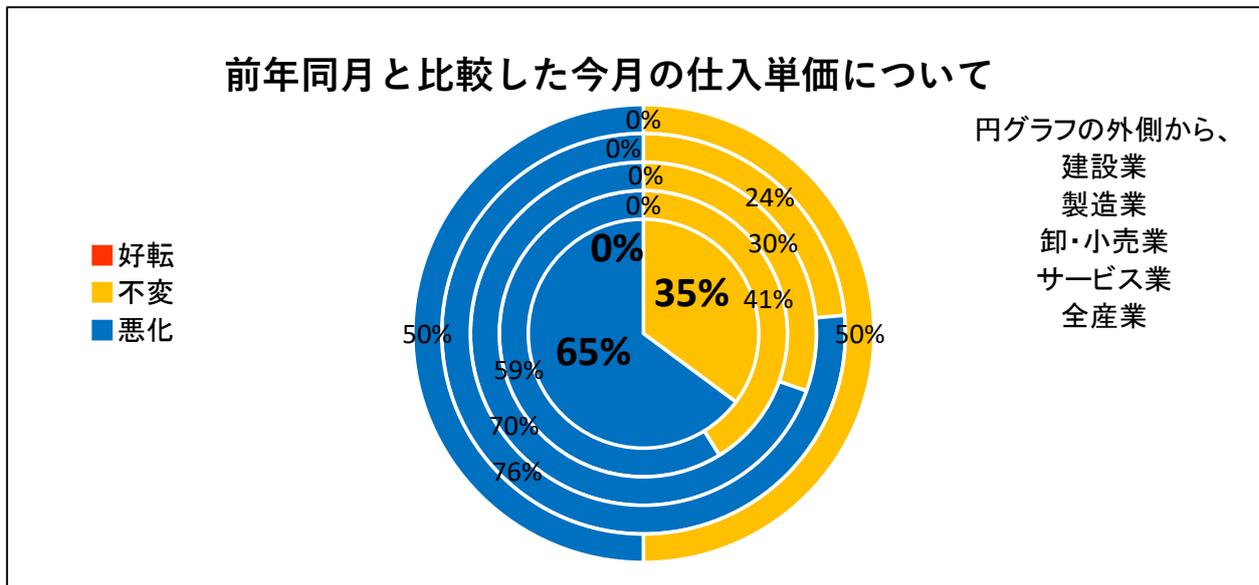
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年					先行き見通し	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2~4月 (2~4月)
全産業	▲13.6	▲9.7	▲16.0	▲18.9	▲23.4	▲25.3	△2.8 (▲3.7)
建設	▲20.0	▲14.2	▲15.7	▲5.2	▲17.6	▲21.4	±0.0 (▲17.6)
製造	▲23.8	±0.0	±0.0	▲43.7	▲50.0	▲41.1	±0.0 (▲30.0)
卸・小売	▲20.0	▲23.3	▲34.6	▲22.7	▲8.3	▲30.4	▲8.6 (△4.1)
サービス	△8.3	△5.0	▲5.2	▲9.0	▲20.0	▲5.8	△23.5 (△25.0)



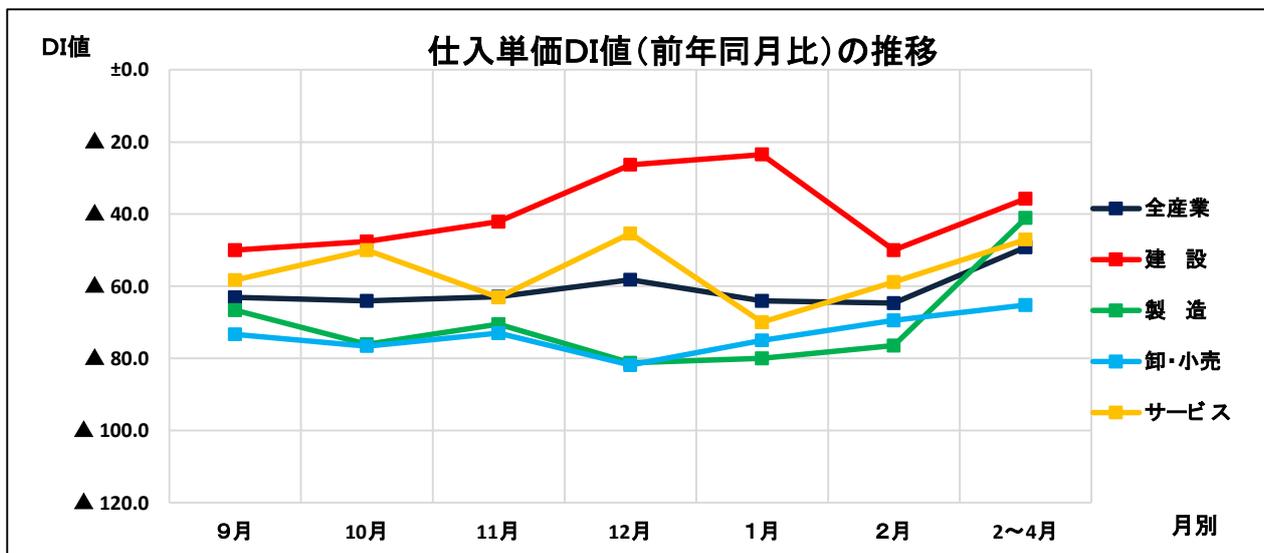
【仕入単価について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲64.7(前月水準▲64.1)となり、マイナス幅が0.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲49.2(前月水準▲48.1)となり、マイナス幅が1.1ポイント拡大する見通しである。



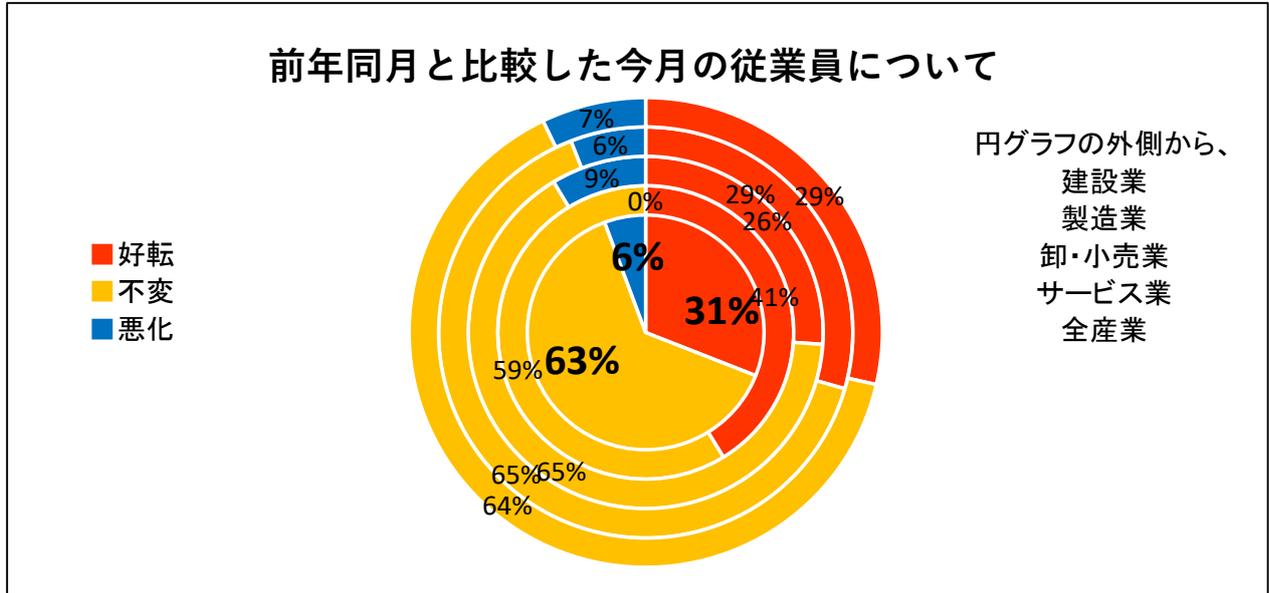
仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

	9月	10月	11月	12月	令和6年 1月	令和6年 2月	先行き見通し 2~4月 (2~4月)
全産業	▲63.1	▲64.1	▲62.9	▲58.2	▲64.1	▲64.7	▲49.2 (▲48.1)
建設	▲50.0	▲47.6	▲42.1	▲26.3	▲23.5	▲50.0	▲35.7 (▲17.6)
製造	▲66.6	▲76.1	▲70.5	▲81.2	▲80.0	▲76.4	▲41.1 (▲55.0)
卸・小売	▲73.3	▲76.6	▲73.0	▲81.8	▲75.0	▲69.5	▲65.2 (▲62.5)
サービス	▲58.3	▲50.0	▲63.1	▲45.4	▲70.0	▲58.8	▲47.0 (▲50.0)



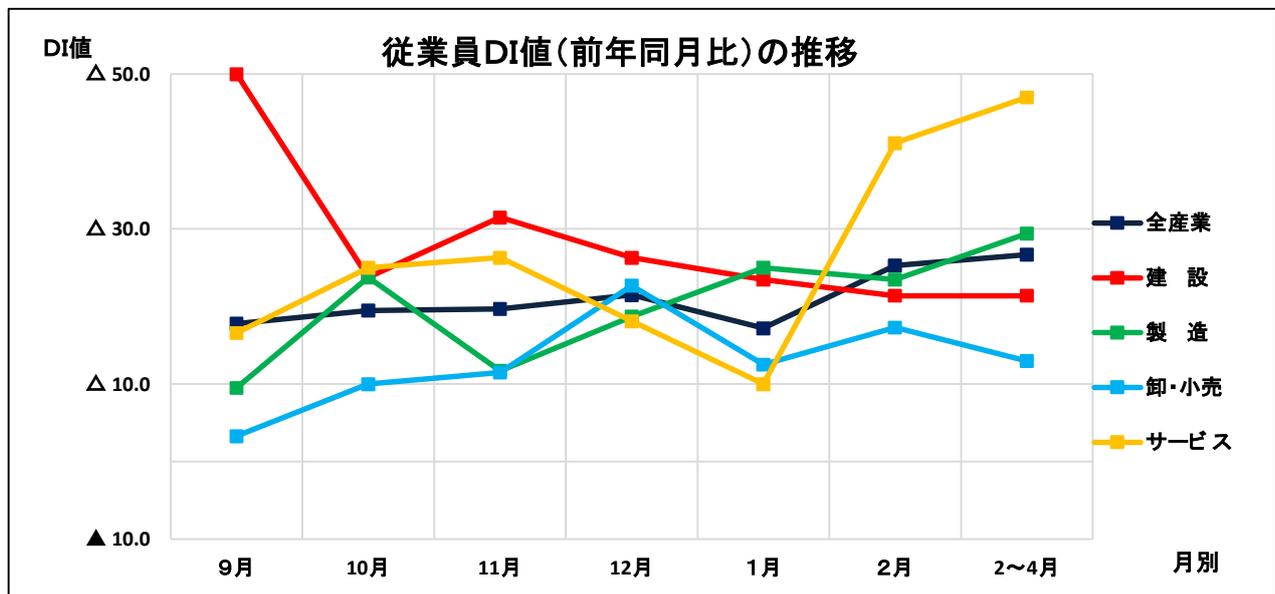
【従業員について】

- 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△25.3(前月水準△17.2)となり、プラス幅が8.1ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△26.7(前月水準△19.7)となり、プラス幅が7.0ポイント拡大する見通しである。



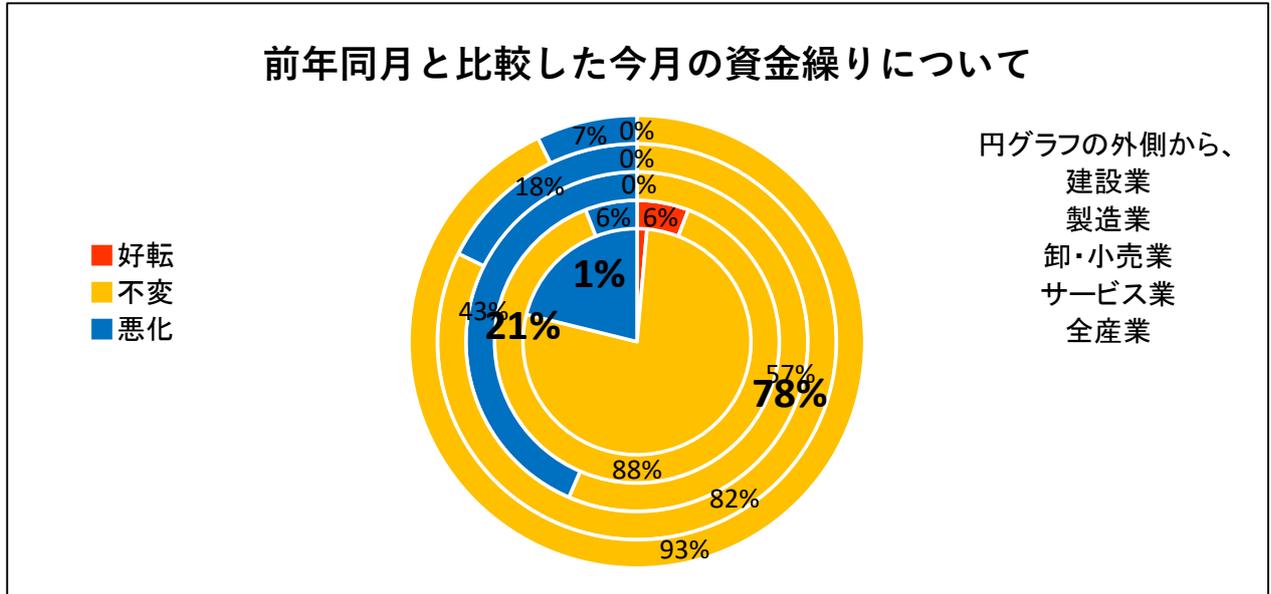
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	9月	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	先行き見通し 2~4月 (2~4月)
全産業	△17.8	△19.5	△19.7	△21.5	△17.2	△25.3	△26.7 (△19.7)
建設	△50.0	△23.8	△31.5	△26.3	△23.5	△21.4	△21.4 (△23.5)
製造	△9.5	△23.8	△11.7	△18.7	△25.0	△23.5	△29.4 (△30.0)
卸・小売	△3.3	△10.0	△11.5	△22.7	△12.5	△17.3	△13.0 (△8.3)
サービス	△16.6	△25.0	△26.3	△18.1	△10.0	△41.1	△47.0 (△20.0)



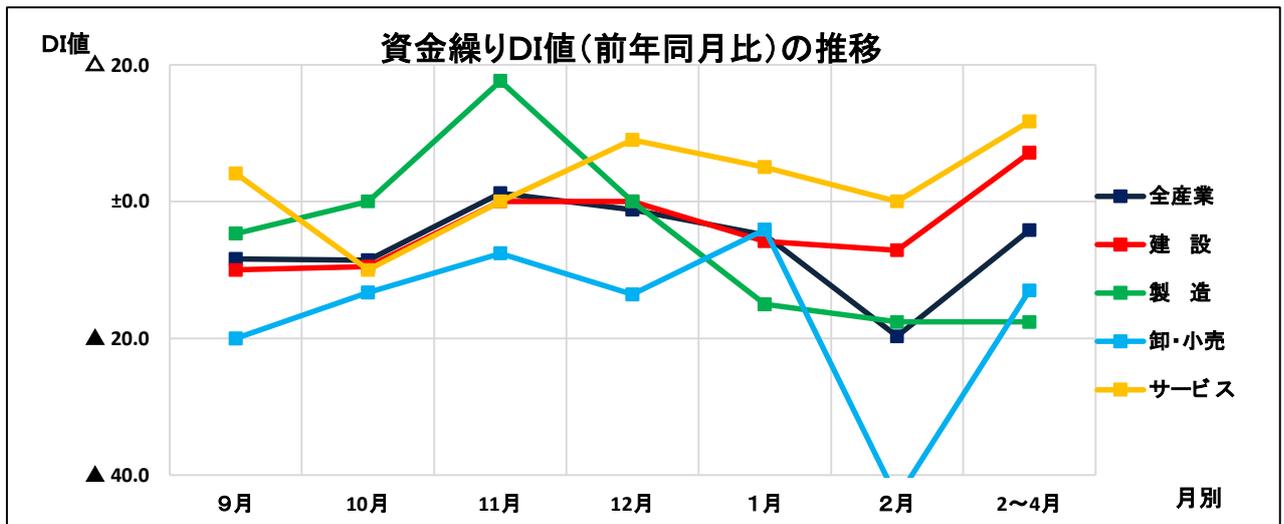
【資金繰りについて】

- 2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲19.7(前月水準▲4.9)となり、マイナス幅が14.8ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.2(前月水準▲3.7)となり、マイナス幅が0.5ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	9月	10月	11月	12月	令和6年 1月	2月	先行き見通し 2~4月 (2~4月)
全産業	▲8.4	▲8.6	△1.2	▲1.2	▲4.9	▲19.7	▲4.2 (▲3.7)
建設	▲10.0	▲9.5	±0.0	±0.0	▲5.8	▲7.1	△7.1 (±0.0)
製造	▲4.7	±0.0	△17.6	±0.0	▲15.0	▲17.6	▲17.6 (▲25.0)
卸・小売	▲20.0	▲13.3	▲7.6	▲13.6	▲4.1	▲43.4	▲13.0 (±0.0)
サービス	△4.1	▲10.0	±0.0	△9.0	△5.0	±0.0	△11.7 (△10.0)

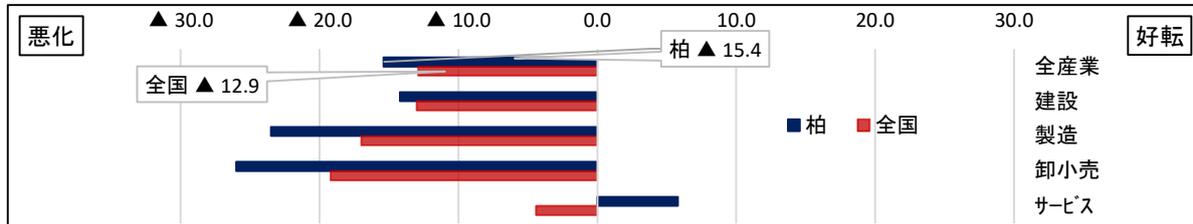


全国（CCI-LOBO）との比較

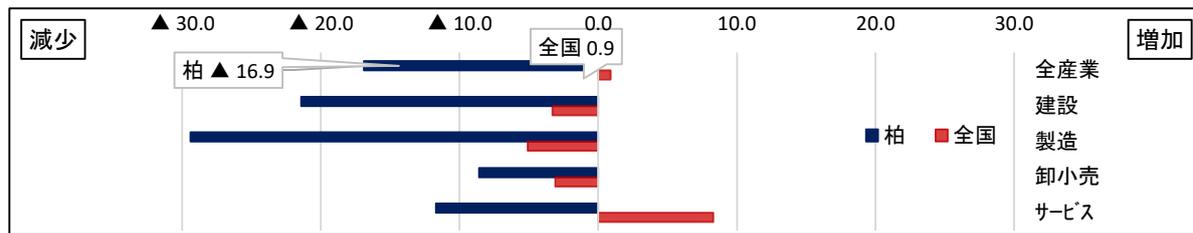
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

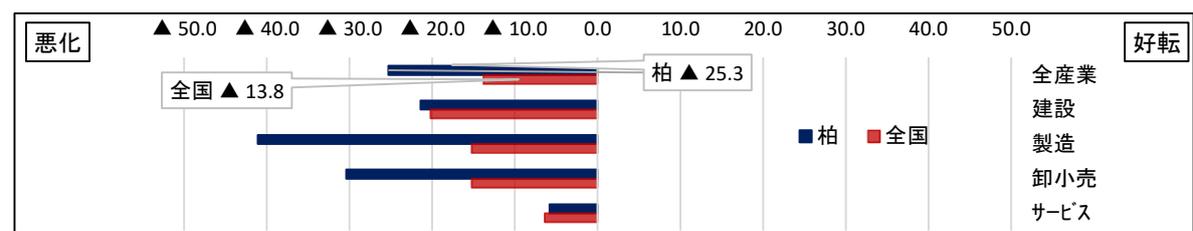
【業況D I】



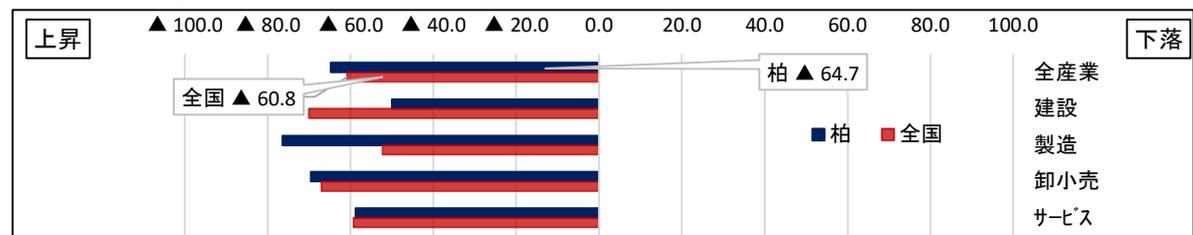
【売上D I】



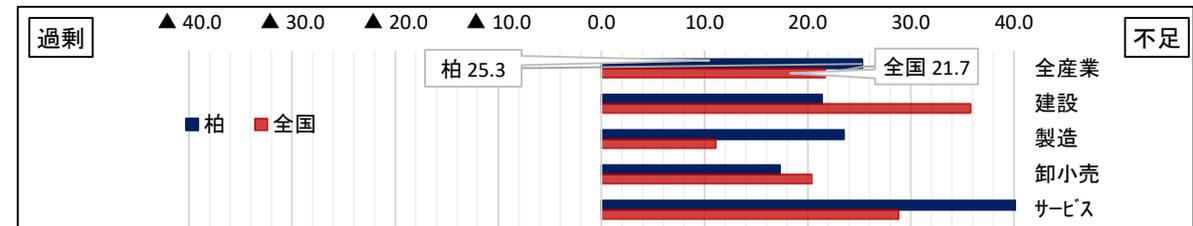
【採算D I】



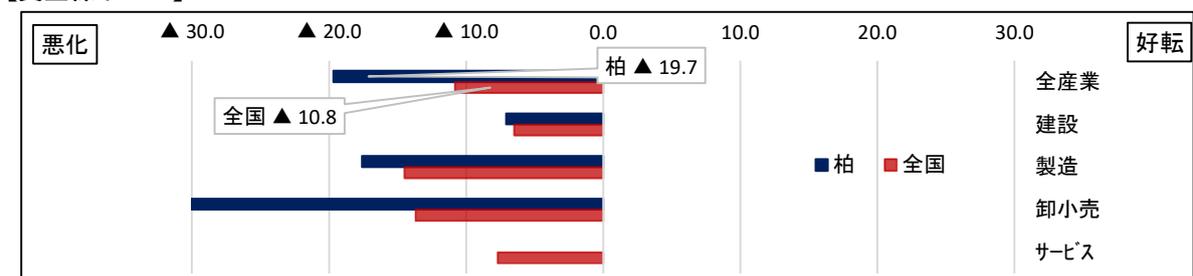
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	元請けからの工事単価が上がらず、技術者等の不足や建設資材価格の高騰により、価経営状況は厳しい	土木建設工事
	新規取引は相見積りとなるため、コスト上昇分を価格転嫁しにくい状況が続いている。一方で、既存顧客は状況に応じた価格転嫁を行った場合に納得が得られることが多く、新規受注が重要と考える	建築工事
製造業	これまで利益をけん引してきた医療品容器の受注に陰りが見え始め、低迷したままの化粧品容器の受注にも回復要因が見当たらない	プラスチック加工
	資源は相変わらず上昇傾向にあるが、当社の製品もそれに合わせ価格を見直ししているのでバランスが取れてきている。人材不足は深刻で技術伝承に問題が出てきている。	その他の機械・同部品製造業
	現在、原材料・エネルギー価格の価格転嫁を行っている最中であり、賃上げ分までの価格転嫁が出来ていない。人材確保の為、大幅な賃上げをしたいが、原資が無く、政府が考えているレベルの賃上げは難しい。	自動車・同附属品製造業
卸・小売業	節分はイエナカ需要がなくなり、若干の減少。バレンタインデーは初動は自分用が好調だったが間際の義理チョコは減少傾向だった。	大型小売店
	バレンタインが店舗前道路工事の為昨年より売上げ減	洋菓子店
	取り扱い食品（弊社の場合は海産物）について近年最悪の仕入れ状況である。高値、原料不足がシーズンを通して予想される。ありがたいことに商品の需要がありサービス、製品の価値向上に努めれば工夫次第で不況を乗り越えることができる・かも。市内においては限定された飲食店以外は苦境に立たされている雰囲気がある。インバウンドやふるさと納税返礼品、EC販売など伸ばせていない部分も強化していきたい。	食料卸売業
	個人消費は悪くないが、今春の実質賃金に左右されると思う。	その他の各種商品小売業
サービス	趣味・嗜好性の強い雑貨関連商品、食物販・サービス関連は好調継続。 ・物価上昇により、販売点数はやや鈍化。 ・テナントスタッフの慢性的な人手不足の声あり、今後の懸念材料。	百貨店
	忘年会、新年会の後の夜の人流減少。	日本料理
	天候の影響が大きい。雪やみぞれ、強風により営業を制限したため、前年同月比で3~5%の売上減少を見込んでいる。修繕費や消耗品は10~15%値上がりしているものが多く利益を圧迫している。	ゴルフ練習場
	新学年度の募集を開始したが、問い合わせ件数が前年同時期の4倍以上に増えており、ようやくコロナ前の水準に戻ってきたことを実感している。	学習塾
	人手不足、即戦力不足	ソフトウェア業

【業種別】業界内トピックス

ス業	インボイス制度導入に伴う会計処理等の処理についてはまだ周辺状況を見守っている状態。 中期的には、災害による社会的損失額の増大性から、強靱化を伴うインフラ整備等で建設関連など業況の好転が期待される。	地質調査・地質コンサルタント
	資材の高騰は相変わらず続いている。価格高騰の為、買いの購入希望者は減少し、全体に売買の動きは低調。金利も上がっており、先が読めない。	不動産管理業

調査要領

回答期間

令和6年2月21日 ~ 令和6年3月5日

調査対象

柏市内181事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	181	71	39.2%
建設	42	14	33.3%
製造	44	17	38.6%
卸・小売	48	23	47.9%
サービス	47	17	36.2%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こ う3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				